

## 会 議 録

|   |                       |         |            |  |
|---|-----------------------|---------|------------|--|
| 議 題   | 第3回大垣市中学校部活動地域移行検討委員会 |         |            |  |
| 日 時   | 令和6年1月29日（月）          | 場 所     | 市役所8階 大会議室 |  |
|   | 14:00～16:30           | 事務局     | 教育委員会事務局   |  |
| 出席者<br><br>(欠席者)  | 竹内治彦委員                | 長谷川哲也委員 | 傍聴者数       | 非公開  |
|   | 高橋正紀委員                | 松村麻里委員  | 記録方式       | 全文・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">要約</span> |
|   | 寺元陽子委員                | 横尾宣幸委員  |            |  |
|   | (川瀬尚志委員)              | 山口敏文委員  |            |  |
|   | 西脇義照委員                | 高橋淳委員   |            |  |
|   | 小竹康一委員                | 原川拓雄委員  |            |  |
|   |                       |         |            |  |
| <p>○部活動地域移行 構想案（含パブリックコメント）について</p> <p style="margin-left: 20px;">・発言なし</p> <p>○実証事業に関するガイドライン（案）について</p> <p>（委員）実証するにあたって、実証側、学校側、子どもと打ち合わせをする場がないと難しいと考える。少年団から、中学校の部活動に加入する子もいる。ガイドラインに沿って打ち合わせをする場があるかどうか。</p> <p>（委員）取り残されてしまう子どもがいないように、交通整理をしていく必要がある。合意形成を図る会を開催するだけで十分なのか検討する必要がある。</p> <p>（委員）子どもの状況、スケジュールがタイトであることから、4月からのスタートを完全な状況で迎えられるわけではない。進んでいくことが前提のガイドラインになるので、進まない場合にどのようにしていくのかも併せて記述した方がよい。</p> |                       |         |            |  |

(委員) 地域クラブを立ち上げていこうと思うと、選手の取り合いになってしまう。試合にどのように出場してくかについては、学校、保護者と調整しながら進めていた。これからは、学校・顧問があまり関与できなくなってしまうので、調整が難しくなってしまうことが想定される。

(委員) 家族と中学生が対象となるため、情報の周知徹底をしていく必要がある。中学生がこのことをどれくらい知っているというアンケート結果から、半数程度になってしまっている。周知の方法についても検討を進めていく必要がある。一堂に会して、情報を伝えていくこと、YouTube を活用しての配信など、色々とトライして欲しい。

(委員) ガイドラインという性質上仕方ないが、実証事業に参加することのメリットが見えにくいので、受け皿となる団体にメリットが伝わるようにして欲しい。また、市全体で教育的意義や熱意を伝えていく必要がある。最初は教育委員会が主導していく必要がある。

(委員) 文部科学省としては、部活動については、地域で支えて欲しいという意味合いが込められている。だから、教育委員会だけでなく、実施主体の熱意というものも求められている。市として補助からの支えと地域からかの支えが必要である。

(委員) 移行ができない部については、現行の活動が継続されている。今の形をすぐに止めてしまうという想定はしていないというのが大前提にある。

(委員) 中体連の大会については土日の開催が主となる。中体連の立場から言えば、先生方の協力がないと成り立たない状況である。しかし、現場の教員は離れようとしている。教員でやりたい人はいるが、指導をしても良いかと言われると勤務時間上難しい。兼職兼業の可能性はあるが、どれくらいの時間が適切なのかを考えていく必要がある。

(委員) 保護者クラブでの継続は可能であるが、継続可能な指導体制となると現実難しいのではないかと考える。事務的なものは、教員が行なっている。外部指導者については、現在学校から委嘱状を渡している。立場が明確になっているが、今後地域クラブの指導者となると立場が曖昧ではないか。このような状況から難しいと考えている。謝金の在り方など情報提供を受けながら、指導者を探しながら部活動から進めていくこと、学校、市から斡旋していきながら進めていく必要があると考える。

(委員) 少年団からの指導者の斡旋はできるかもしれない。子どもが置き去りにならないように具体的に進めていく必要がある。例えば、長期休業の活動についてはどのようにしていく予定なのかについても今後検討していく必要がある。

(委員) ガイドラインをどのくらいの頻度、タイミングで変えていくのかをある程度、明記しておく必要がある。

(委員) 人材バンクの取り組みはよいと思う。西濃地域で取り組んでいくことも今後必要になってくる。

(委員) ガイドラインについて、学校の先生が代表になることは想定していないという説明があった。代表者の負担が大きいと想定されるため、代表者への補助、支援についても検討していくと良い。代表者は1年では変わらないので、支援を手厚くしていく必要があると考える。

|      |  |
|------|--|
| 特記事項 |  |
|------|--|

主宰者等 署名

---